

図書館だより

5月

2022年度5月号

2022年5月
森村学園中高図書館

新学期が始まって一ヶ月が過ぎました。4月は、新入生歓迎会や校外行事、球技大会など、まとまった行事を楽しむことができましたね。ゴールデンウィークも終わって、一学期が半ばに入ります。雨の季節に向かうなか、体調を整えて、充実した学校生活をお過ごしください。

さて、図書館も、入学式と同時に行った図書館オリエンテーションを終えてからひと月以上の間に、多くの新入生のみなさんの貸し出しが始まっています。昼休みや放課後には、ベンチで雑誌やマンガを楽しむ姿が……。この春から新しい学校生活が始まって、勉強に、部活動に忙しい毎日だと思いますが、図書館でゆっくりと好きな本を手にする時間も大切にしてくださいね。

お知らせ

図書館の入り口にお知らせを掲示していますが、

今年度から、身分証明書で本の貸し出しができるようになりました！

中等部2年生から高等部3年生のみなさん！

入学時に配布した図書館利用者カードを無くしてしまった…というひともいるのではないのでしょうか？ご安心ください。今年度から、「**身分証明書**」で本の貸し出しができるようになりました！

本を借りるときは、借りる本と「身分証明書」をカウンターにお持ちください。返却時は、「身分証明書」は必要ありません。

森村学園中高等部HP→→図書館のページ→→「森村学園中高電子図書館」

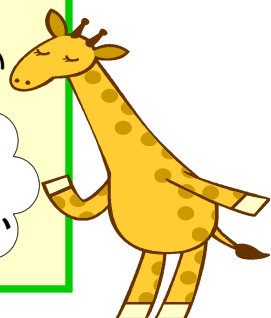
トップページの左うえの「ログイン」に<利用者ID>と<パスワード>を入れて下さい

利用者ID→学籍番号

初回パスワード→学籍番号

初回ログイン時にパスワードの変更を求められます。
自分で必ず、新しいパスワードを設定してください。

こちらは
電子図書館
のごあんない



先生インタビュー



保健体育科 江口徹先生



中高図書館では、一昨年の夏から「夏に読む本」（先生方からのおすすめの本）をまとめています。そのなかで、江口先生から4冊の本を推薦していただいております。読み物・経済・総合と、4冊とも全く違ったテーマです。本を選ぶとき、同じようなテーマになりがちですが、先生はどういった視点で本選びをするのですか？

ジャンルがかぶらないように、という事は意識しています。本屋さんに頻繁に行き、店内を一周してから、平積みになっている本を手に取ります。そうすることで、いま流行っている本や話題になっている本の傾向を知ることができるからです。今なら、ウクライナや政治関連の本が目につきます。その後、自分がどのジャンルの本の前に立ち止まったか・・・、自分の関心のある（ピンときた）本を選び出します。気になった本を1～2冊買って読みますが、意識して同じジャンルにならないようにしています。年間で考えると、結構な冊数の本を購入するので、我が家には本が沢山あります。

関心のある本に偏りが無いんですね。

いったん気になったら、本を開いて目次を読んで、内容が大まかにわかるまで時間がかかっても読んでみます。

いつから本が好きになったのですか？

きっかけとしては・・・、ひとつは、自由課題が出される小学校の夏休みに、いつも絵を描いていたのですが、ある年、読書感想文を書きました。自宅にあった「世界の昔話」のひとつひとつの話しを、毎日一話ずつ、夏休み中30日間毎日読んで感想を書きました。そこで読んだことを自分なりに考えるのがおもしろいと感じました。

二つ目は、小学生のときに本屋の店内を見て回っていて、スポーツ科学の本を見つけました。スポーツが好きで、少し周りよりもできたので、なぜ自分は人よりも運動ができるのだろうか？という疑問がありました。小学生がスポーツ科学の本を読んでいるのは、周囲には驚かれましたが、自分にとっては「あれ？みんなは違うの？」という感じでした。このあたりから、自分は本を読むことが好きだという自覚を持ちました。本を読みながらメモをとるといことが好きで、読んだ後には読書感想文を書いてアウトプットする、という事をしていました。

今日は、おすすめの本をお持ち頂いています。

『表参道のセレブ犬とカバリー要塞の野良犬』若林正恭著 文春文庫

この本は、作者が、社会人になったときに世の中のことを何も知らないことを自覚し、家庭教師として東大生にお金を払って、質問形式で学んで行くところから始まります。世のなかのことについて、自分の感じた疑問を、相手が年下の人であっても関係なしに質問するという姿勢が好きです。やがて、社会主義のキューバへ興味をもち、資本主義と対極にある社会主義を知るためにキューバに旅することになります。自分の興味を追求することこそが、探究学習だと考えていて、この行動を起こしてみようということは教員も忘れてはいけないことだと思います。是非読んで欲しくて持ってきました。

人間は、ボタンがあったら押してみたいし、海があったら向こうに何かがあるか、見てみたいものです。でも、周りの目を気にしたり、周りの価値観に適用しようとしているうちに、徐々にその気持ちが薄れていく、それでも、やってみないと、前には進めないものです。小中学生で、いろんな物差しで測られるうちに、こわくなったりして行動を起こすことで何かを確かめる気持ちが薄れていってしまいます。でもやはり、行動を起こし続ける、まず動いてみるのが大事だと思います。



江口先生は、サッカーがご専門で、授業や部活動でサッカーの指導をされています。コロナ禍での体育は、ご苦労がおりかと思えます。制限されたなかで、いつもと違ったメッセージはありますか？

コロナ禍で制限があっても、以前と変わりなく、運動を楽しむことが大事ですね。卒業後も、自分の健康のためや趣味で、あるいは楽しいから運動することを続けられるように、というのがメッセージです。運動しなくてもスポーツ観戦でもいい。例えば、実際に自分がバドミントンをしなくても、「観る」のであっても、運動との関わり方が広がり、生涯スポーツといえるかもしれません。

先生が授業で指導されていることを、学校図書館を通して本の利用につなげてゆくとしたら、どのようなことができるでしょうか？

授業で学んだことを深めることが大事で、そのためには学校図書館の活用は良いと思います。たとえば、「食事」という単元で考えてみると・・・、授業で血糖値についてなど学ぶとします。ただし、自分の食生活の中で実際に食べるものを決めていくためには教科書に載っていることだけでなく、自分でネットや本で調べることが必要となります。スポーツの倫理や価値観など複雑な問題については、教科書プラスアルファで本で読むことが必要になります。自分で探究しなければできないものは、図書館で調べることができることをすすめています。

先生のクラスでは、朝の読書時間はどのような様子ですか？

いろいろなジャンルの本、例えば経済や事実に基づく話や小説などを学級文庫には置くようにしています。

具体的にどんな本がおすすめですか？

例えば、星新一の『ポッコちゃん』のようなショートショートは、すぐに読めるし、ひとつひとつにオチが付いていて面白いです。中学生に本の読み方を教えるときに勧めます。『サードドア』は、学習して成し遂げる、試行して修正を繰り返すということを知る内容。それが本当の学びだということをお伝えできます。

最後に、中高生へのメッセージをお願いします。

日々の生活を、自分のものにしてほしい。部活動や習い事などを、どれだけ主体的に自分のものにできるかどうか。進路に関しても同じ。例えば、部活動をなぜやっているのか、自分に問いかけてほしい。高校を卒業するときどうありたいのか、理想にどのくらい近づけたか。目的を常に問いかけ、日頃から意識してほしい。自分は、保健体育の教員であり、その前に教員であり、子どもに接する大人として、学ぶことが楽しいという事を伝えたいです。今やっていることがつまらないとすれば、何か原因があるはず、学ぶことは、大前提として楽しいはず、もっと自分の心の声を奥深く突き詰めれば、学習は楽しいはず、追求してゆけば、自分もやってみたいと思うはず、いまはその過程にいるんだよ、と……。

保健体育の先生である江口先生は、自らの専門のサッカーを部活動や授業で指導なさっています。その姿と、本を読みながらメモをとってアウトプットすることが好きというのは、正反対のようにも感じますが、根底には、学ぶことを楽しむということが、江口先生の基本だと感じます。今日は、どうもありがとうございました。

インタビューの中で紹介された江口先生のおすすめの 5冊！

この中の4冊は、2020年と2021年の「夏に読む本」(先生がたの推薦図書)に掲載しています。

中等部生 に おすすめ

『ポッコちゃん』 星新一著 新潮文庫

星新一さんのショートショートシリーズの中の1つです。森村の図書館にもこのシリーズはたくさん置いてあります。「読書が苦手」、「読む本がない」なんて人たちにはおすすめです！1つの話が10ページもないので、どこからでも気軽に読むことができます。そして何より面白いです！物語はどのように構成されているのか、物語はどのように読んでいけばいいのか、読書の楽しみを教えてください。



高等部生 に おすすめ

『金持ち父さん貧乏父さん』 ロバート・キヨサキ著 筑摩文庫

「お金のことって何から学べばいいのだろうか・・・」、興味はあるけどよく分からない、そんな人たちにおすすめの本です。主人公は金持ち父さんと貧乏父さん2人の父を持ち、その2人の行動や考え方からお金について学んでいきます。みなさんがお金を稼ぐ前に、お金との付き合い方を教えてください。また2人の父さんから出る名言にも注目です。お金だけではなく人生をよくするために考えるきっかけをくれます。



中等部生
に
おすすめ

『ミライの授業』 瀧本哲史 講談社

テクノロジーの発展により、多くの仕事はロボットが担うようになっていきます。そんなミライを楽しく過ごすためにはどうすればよいのでしょうか？それはミライを作る側の人間になることです。これまでにミライを作ってきた人たちには実は様々な共通点がありました。この本を読んで、ミライの作り方を学びましょう！読んだ後に日常生活の見え方が変わります！ミライの作り方のヒントはあなたの目の前にあるかもしれません！



高等部生
に
おすすめ

『サードドア:精神的資産のふやし方』 アレックスバナヤン
東洋経済新報社

人生において行動を起こすときには3つのドアがあります。①誰もが使うドア②VIP専用のドア、多くの人は①に嘆き、②を妬みます。しかし世の中には3つ目のドアがあります。③抜け道のようなドア。その場所は、誰も教えてくれないが、いつでも開いているものです。この本の面白さはこのスペースだけでは表現できません！まず読んでください！この本を読むことがあなたにとっての第3のドアになります。



『表参道のセレブ犬とカバーニャ要塞の野良犬』
若林正恭著 文春文庫

